

京都大学バリアフリーフォーラム2022

開催概要

【日時】

2022年11月12日（土曜日）10時00分～17時00分

午前の部：スポットライトセッション ※ホール企画

午後の部：オープンセッション ※ブース展示企画

【場所】

京都大学 百周年時計台記念館 百周年記念ホール・国際交流ホール

（京都市左京区吉田本町 京都大学 吉田キャンパス 本部構内）

<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/about/facilities/campus/clocktower>

【フォーラムの趣旨】

「学問の『危機』は、学問が生に対する意義を喪失したところにある。」今から80年以上も前、オーストリア出身の哲学者 E. フッサールはこう述べました（『ヨーロッパ諸学の危機と超越論的現象学』1936年）。不思議な言葉です。学問とは本来、私たちの生（命、生活、人生）から生まれ、私たちの生を豊かにするために生まれたものはずです。しかしその学問が生から乖離し、生に対する関心を失っているというのです。

しかし、よく考えてみると、この言葉は現在にも通用するのではないのでしょうか。確かに、私たちは科学・技術の急速な発展の恩恵に浴しています。しかし、一方で「数値化」「精密化」「実証主義」といった（実証科学特有の）考え方が社会に浸透し、「生産性」「効率」「競争」「費用対効果」といった言葉が普遍的な美德とされて、私たちの「生きづらさ」を生み出しています。まさに学問と私たちの生が乖離しているのです。

少しここで立ち止まり、「生きづらさ」ではなく、「生きる喜び」「わくわくする思い」を与えてくれるような本来の学問について、考えてみませんか？

本フォーラムでは、学問を捉え直す切り口として、「障害」をとりあげます。「学問」と「障害」、あまり接点がないように思われそうですが、「学問」が私たちの生に直接関わっているのであるならば、「障害」というキーワードは「学問」の根底を掘り起こすきっかけを与えてくれるはずです。なぜなら、「障害」は「生きづらさ」や「生きる喜び」と分かち難く結びついているからです。「障害」を切り口にすることで、非障害者というマジョリティが築き上げてきた学問体系とはまったく異なる地平が拓けてくるはずです。

このような思いの下、本フォーラムのメインテーマを、「障害×学問」…学問を「障害」が引っ張っていく、としました。そこには「学問を崇高なものとしてでなく、身近なものとして捉えていきたい」という願いがあります。

【フォーラムの内容】

本フォーラムは、上記の趣旨に沿った実践や研究を募集し、それらを共有・交流することを目的として開催します。実践や研究の内容については、メインテーマ「障害×学問」に沿った内容であれば、分野を問いません。※募集要項は別紙のとおり

皆さまから応募していただいた発表内容を、本フォーラムに設置した審査委員会にて10件程度を選定させていただき、フォーラム当日の午後に実施するオープンセッションにてブース展示等を行っていただきます。※当日の参加者は自由に各ブース展示にアクセスする形となります。

また、特にユニークな内容の発表（2～3件程度）を選定して、フォーラム当日の午前に実施するスポットライトセッションにて発表を行っていただきます。その他、スポットライトセッションでは、実行委員会や審査委員会のメンバー数名により、本フォーラムの趣旨に沿ったトークセッションを実施します。

本フォーラムは、上記のようなプロセスにより構成される参加型のフォーラムとなります。また、フォーラム当日には参加者の皆さまとの交流やそこから新しいアイデアや関係性が生まれることを何より期待しています。

【実践・研究発表】

- ・ 応募制 ※応募期間：7月19日（火）～8月17日（木）
- ・ 審査委員会により当日の発表者及びブース展示者を選定
- ・ 選定外の発表についても専用ウェブサイトにて紹介予定（希望制）
※詳細は別紙の募集要項のとおり

【参加申込】

- ・ 事前申込制（定員：200名） ※申込期間：10月3日（月）～11月4日（金）
- ・ 参加費無料
- ・ 原則として参加資格等はありませんが、営利目的の方などはお断りすることがあります
※詳細は京都大学 学生総合支援機構 障害学生支援部門（DRC）の専用ウェブサイトのとおり

【その他】

- ・ 午前のスポットライトセッションには、文字通訳・手話通訳があります。
- ・ 午後のオープンセッションには、参加者間のコミュニケーションをサポートするためのサポートスタッフを複数名配置します。
- ・ 参加にあたって必要な事項等がありましたら、参加申込時の専用フォームにてお知らせください。可能な範囲で対応を検討いたします。
- ・ パーソナルなアテンダント等は主催者側では配置できかねます。
- ・ 原則として自家用車でのご来場はできません。公共交通機関をご利用ください。
- ・ 宿泊先や食事等の手配や紹介は行っておりません。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況によって、開催方法を変更する場合があります。

【主催】

京都大学 学生総合支援機構 障害学生支援部門 (DRC)

<https://www.assdr.kyoto-u.ac.jp/drc/>

【共催】

京都大学 高等教育アクセシビリティプラットフォーム (HEAP)

<https://www.assdr.kyoto-u.ac.jp/heap/>

東京大学 インクルーシブ・アカデミア・プロジェクト

<https://idl.tk.rcast.u-tokyo.ac.jp/>

東京大学 障害と高等教育に関するプラットフォーム (PHED)

<https://phed.jp>

【実行委員会】

嶺重 慎 (京都大学 理学研究科) ※実行委員長

村田 淳 (京都大学 DRC) ※事務局長

塩瀬 隆之 (京都大学 総合博物館)

【審査委員会】

熊谷 晋一郎 (東京大学 先端研科学技術研究センター) ※審査委員長

※審査委員会は10名程度の委員で構成していますが、委員長以外の審査委員については、10月初旬に公表予定の審査結果とあわせて公表します。

【事務局】

京都大学 学生総合支援機構 障害学生支援部門 (DRC)

電話：075-753-2317 E-mail：bf-forum@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

バリアフリーフォーラム担当